

自然環境論B

講義情報	
講義名:	自然環境論B
教員:	山崎 友紀
単位:	2
カテゴリ:	経済学部

開講情報	
キャンパス:	多摩
開講時期:	後期
開講学年:	
昼夜区分:	共通
曜日・時限:	

授業の到達目標及びテーマ

自然環境と人間の調和を支えるために必要な知識と判断力を身につけることを目標とする。

環境保全の概念と基礎事項、そして環境問題の現状について理解を深めるため、公害の歴史や化学史を参照しながら、人間と環境との関わりについて知る。また、

環境汚染の発生メカニズムとその現状、環境汚染物質が自然環境にもたらす影響について、さらには環境保全の技術と社会との関わりについて理解する。

化学物質（とくに環境汚染物質）の環境での挙動、生体および生態系に及ぼす影響、われわれの生活と環境との密接な関わりについて具体的な事例を挙げながら勉強する。

授業の到達目標及びテーマ(Webのみ)

自然環境と人間の調和を支えるために必要な知識と判断力を身につけることを目標とする。

環境保全の概念と基礎事項、そして環境問題の現状について理解を深めるため、公害の歴史や化学史を参照しながら、人間と環境との関わりについて知る。また、

環境汚染の発生メカニズムとその現状、環境汚染物質が自然環境にもたらす影響について、さらには環境保全の技術と社会との関わりについて理解する。

化学物質（とくに環境汚染物質）の環境での挙動、生体および生態系に及ぼす影響、われわれの生活と環境との密接な関わりについて具体的な事例を挙げながら勉強する。

授業の概要と方法

講義形式で進める。ビデオ鑑賞やネットワーク学習（授業支援システム）も適宜取り入れ、授業内容の理解を促します。毎回の授業に復習課題を課します。

授業の概要と方法(Webのみ)

講義形式で進める。ビデオ鑑賞やネットワーク学習（授業支援システム）も適宜取り入れ、授業内容の理解を促します。毎回の授業に復習課題を課します。

授業計画

第1回 ガイダンス：講義内容、計画、評価方法、テキストの紹介
「環境」の定義づけ：科学、地学、地理学、工学、経済学など様々な角度からみた「環境」
国内外の環境に対する取り組みや体制

- 第2回 環境の構造とそれぞれのつながり
(環境問題の原因、結果、それぞれの因果関係)
- 第3回 エネルギー問題を考える
(熱、エネルギー、資源を理解する基礎学問の復習)
- 第4回 国内外の資源・エネルギーの現状と過去・未来
- 第5回 わが国におけるエネルギー資源の現状と課題
- 第6回 資源・エネルギーにまつわるさまざまな環境問題
- 第7回 気候変動と地球温暖化
- 第8回 水、土壌、大気環境問題の現状と課題
- 第9回 化学物質と環境 (化学の重要な役割と自然との関わりを理解し、資源を化学的にとらえる)
- 第10回 食品と環境
- 第11回 化学物質の安全性と毒性評価
- 第12回 廃棄物とりサイクル
- 第13回 環境を評価する (環境アセスメントと環境分析)
- 第14回 環境と経済

授業計画(Webのみ)

- 第1回 ガイダンス：講義内容、計画、評価方法、テキストの紹介
「環境」の定義づけ：科学、地学、地理学、工学、経済学など様々な角度からみた「環境」
国内外の環境に対する取り組みや体制
- 第2回 環境の構造とそれぞれのつながり
(環境問題の原因、結果、それぞれの因果関係)
- 第3回 エネルギー問題を考える
(熱、エネルギー、資源を理解する基礎学問の復習)
- 第4回 国内外の資源・エネルギーの現状と過去・未来
- 第5回 わが国におけるエネルギー資源の現状と課題
- 第6回 資源・エネルギーにまつわるさまざまな環境問題
- 第7回 気候変動と地球温暖化
- 第8回 水、土壌、大気環境問題の現状と課題
- 第9回 化学物質と環境 (化学の重要な役割と自然との関わりを理解し、資源を化学的にとらえる)
- 第10回 食品と環境
- 第11回 化学物質の安全性と毒性評価
- 第12回 廃棄物とりサイクル
- 第13回 環境を評価する (環境アセスメントと環境分析)
- 第14回 環境と経済

テキスト

- 『地球環境学入門』 山崎友紀 (講談社サイエンティフィック) 2010.4月刊行予定
- 『フォトサイエンス理科総合B』 数研出版

参考書

- 『環境・エネルギー・健康 20講』 今中利信・廣瀬良樹 (化学同人)
- 『生態系と地球環境のしくみ』 大石 正道 (日本実業出版社)、
- 『人間・環境・地球-環境物質と安全性-』 北野大・及川紀久雄 (共立出版)

成績評価基準

期末試験60%、授業への取り組み(出席と課題)を40%として100点中の60点を合格とする。(学部の評価基準のとおり)

成績評価基準(Webのみ)

期末試験60%、授業への取り組み(出席と課題)を40%として100点中の60点を合格とする。(学部の評価基準のとおり)

情報機器使用

授業支援システムを使います。各自登録をしてください。

その他

教科書の購入をしてください。
授業支援システムへの自己登録をしてください。